

■■ゲリラ豪雨だ大変だ■■

ここしばらくの夏コミは毎回雨に見舞われている。朝の入場待機時に降ったこともあるし、会期中に降ったこともある。どの例でも多くの参加者が雨に濡れ、せっかくの戦利品を濡らしてしまったと悔やむ姿も見られた。もはや『夏コミでは雨はあり得る』と常識を書き換える必要がある。

今回も降るかもしれない、という大前提のもとに、対策を講じておくべきだろう。降らなくて用意が無駄になる方が、用意無く降られて全てをすぶ濡れにするよりはるかにいいハズだからだ。

■雨対策とは何か？■

「雨対策」と聞けば多くの人が『折りたたみ傘かカッパを用意しておけばいいんでしょ？』と思うだろう。しかし、「コミケットの雨対策」となると話が違ってくる。傘やカッパ『だけ』では、まったく足りない。コミケットならではの特殊な事情を考慮して対策を講じる必要がある。それは、『濡れても簡単に着替えることができない』点と『自分自身以上に濡らしたくない戦利品が本（紙）という最も水に弱いものである』点だ。この観点から言えば、状況により使用できないかもしれない、上からの雨以外はあまり防げず風に弱い傘も、着込んでも自分自身しか雨から守れないカッパも、満点の雨対策ではない。会場で雨が降り出してからこのことに気付いても、時すでに遅しだ。あらかじめしっかりと用意しておこう。

●事前にしておくこと●

- ・折り畳み傘、ポンチョ、できれば防水性のあるバッグ、大判のビニール袋を用意する。
- ・プラケース、ジッパー袋など、本を入れて水濡れから防げるものを用意する。
- ・靴、カバン、上着、帽子などには事前に防水スプレーを吹いておく。
- ・タオルや手拭いなど拭くものは必ず用意しておく。

■雨足との競争に勝つ■

もし降り出した雨が夕立ちやゲリラ豪雨と呼ばれるものだったら、ポツポツきたと思ったら次の瞬間にはどっと雨が降り注いでくる。

雨具を着込んだり、カバンやバッグにビニールを掛けたりするために使える時間はごくわずかなので、あらかじめ何をどこから出しどう着込むのかをシミュレーションしておこう。

また、雲行きや気象情報に注意しておき、降り出しそうな兆候を掴んでいち早く準備にかかることが肝要だ。

当記事では、コミケットにベストな雨具はポンチョであると推し続けているが、これはポンチョが着込むのにかかる時間が他の雨具に比べて圧倒的に短く、かつリュックやショルダーバッグなどの荷物を身に付けたままその上から着用することができるからだ。また、レインコートなどは着用したまま活動すると湿気が籠もって内側がびしょ濡れになることがあるが、通気性の面でもポンチョは優秀だ。

そんなポンチョの弱点は強い風に煽られやすいことと、表面を流れ落ちた雨水が大部分靴に降りかかることだ。靴の中が水浸しになりかねないので、防水の靴か、逆に水抜けの良いスポーツサンダルやウォーターシューズなどを履いておくとうい。



●雨対策は『その後』が大切

雨に降られ、雨具の着用や傘をさすのが間に合ったにしろ、残念ながら間に合わなかったにしろ、参加者が気をつけねばならないのは、ホール内に水を持ち込まないことだ。

サークルスペースの卓上には各サークルが丹精込めた作品がぎっしり並んでいる。そこに雨水を撒き散らすのはあまりに無神経な行為だろう。

1秒でも早く目当てのサークルに向かいたい心をぐっとならえ、傘や雨具の水気をタオルなどで丁寧に拭き取ろう。もしカバンや衣服も濡れていたらできるだけ水気を吸い取り、髪や帽子などから水滴が滴らないかもよく確認してからサークルに向かおう。そのために、タオル類はお忘れなく！

No!
Drop